

お手本がいなくなる

服部新聞の紙面で皆様に材木の色々なお話をさせて頂いていますが、これが出来るのは、小生の尊敬できる大先輩がいらっしゃるからです。しかし小生が60歳を超えるとすることは、先輩方達も年を取られ木材業界から卒業される事を意味するのだと思います。

昔から小生のお手本にしていた大先輩方は、北海道静内の広葉樹製材工場の社長、名古屋の南洋材問屋の社長、姫路の材木屋の社長、大阪の複合フロアの常務、大阪の木材問屋さんの会長、突板メーカーの会長、等10人以上いらっしゃいましたが、今はゼロになりつつあります。

勿論小生の一番のお手本は父服部良昌と祖父服部猪三郎で有った事は間違い有りませんが、同業他社の諸先輩方達から得たものは、肉親から得たものとは違う物が多く有りました。

祖父の言葉で最も忘れられない言葉は、服部の方針『商いは絶対に勝負するものではない。魚は山で買い。材木は海で買え』でした。

父の教えは『天木を抑えられる樹種を商いの中心にする』です。

*天木とは、自分が主に扱っている樹種で一番良い原木を言うのですが、品質が常時変化する原木で天木がどれだと解るのに、十数年かかりました。

社長をさせて頂いて22年目になります。忠実に教えを学んで実行してきましたが、外部環境の大きな変化は、100%順守することは出来なくなって来てしまいました。しかし受け継いだ心と言いましようか志は順守しています。

現在の服部商店と服部雅章が存在できるのは、父と祖父、そして服部商店に出入りしてくれた方々のお陰です。

又特に22歳から25歳までお世話になった今は亡き名古屋市の材木屋さんの安藤さんのお言葉『外部環境に常に合うことができるような人間になれば、浮き沈みは小さくなり安定する』は今も頭の中に有ります。

現在服部雅章の頭の中で最も大事にしている言葉は、『材木屋だからできない』は禁句だということです。

材木屋だけが、出来ることを突き詰める。それを徹底して情報公開してユーザーさんに知って頂く。これが最も大事な仕事だと思います。

御客様アンケートのご報告

150号で企画したアンケートのご回答ありがとうございました。色々な意見が有りましたが、今月号のトップの記事でも取り上げましたが、我々の方針が間違っていると考えると何もかも整合性が取れてくると思い以下のお二人さんのアンケートを取り上げさせて頂きました。

チークのしらたと赤身の問題提起ですが、服部雅章の考え方は、シラタでも材木に変わりはないから使い分けして頂いたら十二分にご使用に耐えると思っていました。しかし流通革命の中で商いをさせて頂いている以上、御客さんの考えを反映しない商いスタイルをとってればいずれ生きづまります。

御客A様

服部新聞150号へのアンケート

アンケートではありませんが提案です。私はお宅にとって大したお客ではありませんが、お宅にとってお客をなくさないための気が付いたことを書きます。

ネットにてお宅よりチークの端材を購入しました。注文時では写真と寸法だけ判断するしかありません。しかしながら届いた実物はチークの赤身と通常では使用しない木材の外側の白身部分が含まれたもの

でした。寸法は外側すべてを含めたものです。

極端なものでは1/3が白木のものであり、チークとして使用するには計算より多くの材料が必要となりました。

ここで提案、寸法に本来のチーク部分と外側の白木部分の寸法を表示してもらえば期待を裏切らずとても親切です。端材なのでいろいろあるのは理解しています。多めに買ったのでなんとか足りました。

御客B様

アンケートへのお返事

1. 服部新聞はアクが強い

はい

2. 是非服部新聞を続けてほしい

はい

コメント

会社の経営姿勢や経営者の額が見えて、親しみを感じております。永年、同じ仕入先や販売先では商習もなかなか変えることが困難で、結果として新しい時代の変化に取り残されることとなります。特に、販売代金の回収は現金化してゆくことが資金力を生むと同時に、身を守る最高の手段になるように思っています。

小生は趣味として木工をしております。40歳すぎごろ、地方へ転勤となりDIYが好きになったのが始まりです

そして、いつの間にか、木の香りに安らぎを感じるようになりました。木工が好きになり、木に関する本を都度集めました。退職してやっと木工に取り組めるようになり、楽しく毎日を過ごしております。

さて、趣味の世界から感じたことをいくつか書いてみます。インターネットの普及で情報環境が大きく変わりました。「木工教室 大阪」で検索すると、以前は「アルブル」しか出てきませんでした。木材を欲しくても、一枚板などを販売している会社はあっても素人にはなかなか分かりません。美原の木材団地祭りや摂津の木材市も今はありません。

小生はクラフトパークの先生に教えてもらって御社を知りましたが、以前に「木材」で検索しても出てこなかったように思います。今は出ております。ついでに、「材木」で検索しても出るようにされたら如何でしょうか。

木工工具の入手先は、昔はホームセンターがほとんどでしたが、今は「オフコーポレーション」が多くなっております。オフコーポレーションもホームページの充実状況から大きく業績があがっているように感じられます。他方、昔の職人さんが使っておられた道具などは日醒市の古道具屋か日本橋の「清重商店」くらいしか手に入らないのではないのでしょうか。書籍や雑誌は逆に、以前は多く発行されていたのにほとんど見かけなくなりました。

木工教室の年配の生徒さんも「本が売っていない」とお話をされておりました。

多く発行された時代は、団塊の世代の大量リタイヤを見越して、定年後のアプローチとして発行されていたのかなと思ったりしております。

クラフトパークに通わせて頂き、結構な人数の愛好家がいるのだなあと気付きました。また、仕事として木エをされている方も多くおられることに驚いております。職人さんの仕事で生活が成り立つような環境になりつつあってほしいと願っております。でも、展示会などで出品されている作品の値段を見ると、手が出ません。木の材料価格、手間を考えると当然なのですが…きえ木工を自宅でしたい人は結構多いのではと思いますが、大阪の住宅環境では作業場所の確保や音の対策などあり、「福野を広げるのはむずかしい」のが現状でしょうか。

小生は仕事生活の最後10年を淡路島で過ごしました。そのようなことから、地理的な近さで徳島によく遊びに行きました。地元の材木会社が「KiKi」という木工品販売店を運営されています。テーブルと椅子と木の時計が印象に残っております。どこも新しい方向性を見つけようと努力されているのがわかります。

徳島県の運営で「木工会館」もあり、小規模会社の木工製品の類売にも力を入れているのがわかりました。ただ改めて「木材」という原点の入手にさかのぼると、従来はホームセンターしかありませんでした。広葉樹の木材なんてどこで売っているの？ 豊富な樹種・様々なサイズが入手でき、過去には考えたこともなかった原産地を知ることでもでき、驚きです。柱目の材を選択的に入手できるなんて、趣味程度の使用量でも販売していただけることは大変助かります。ありがとうございます。

ニューヨークの写真を見てください。



左の写真はプラザホテルです。1985年9月22日当時の日本国の大きな分水嶺になった現場です。

プラザ合意という言葉を知らない若者が増えました。34年も昔の話ですが、当時の竹下大蔵大臣が出席していました。当時高すぎる米ドルが世界経済に悪影響を及ぼしていると言う話で先進国が為替相場を話し合った現場です。

この会合後に日本は円高不況に襲われ、その後バブル経済に移行するのです。

※あくまで私見ですが、当時の日本の経済運営の方針を一番学んでいるのが現在の中国政府だと思います。日本は民主主義で資本主義ですので、共産主義体制の中国とは全く違いますが、もしこのプラザ合意の内容がもう少し日本国にとって不利ではない『急激過ぎる円高ではなく穏やかな円高』なら、ひょっとすると失われた20年と言われる、長期のデフレ不況には陥らなかったのではないかと思うと感慨深くなりました。

そのプラザホテルを、大統領になる以前にトランプ氏も手に入れようとしたそうですが、先方は売却を拒んだそうです。

現在は中東の大富豪の持ち物になっているそうです。

右の写真はトランプタワーです。外観がプラザホテルと全く違い総ガラス張りになっています。ガラス張りの方がメンテナンスしやすいそうです。

しかしニューヨーク市内の不動産の売買事例は、古い貴重なビルの方が高い価格で売買されているそうです。

運賃無料

新元号記念特別セール

木材本体価格 50,000 円以上
お買い上げの方に限らせて頂きます

開催期間： 4月22日～5月6日
発送： 5月7日以降に限ります
(運送の都合)

令和『過去の昭和64年と平成元年』を考える為に 31年昔を遡る

昭和64年が平成元年で有る事は解っていますが、その当時の記憶は殆ど残っていない中、少しだけ残っている記憶を振り返りたいと思います。

当時はタモ原木の良材の価格が暴騰していた記憶があります。中国材が日本のタモ材のマーケットの重要な部分を占めていました。

当時の入荷量は現在の10倍以上有ったと思います。販売は好調で商社と問屋は大儲けしていたと思います。

又ロシア材が現在の様なトリミングではなく、パルプ材扱いで入荷が始まっていたと思います。

当時のロシア材と中国材を比較すると、月とすっぽんという言葉が丁度合う品質の材でした。それが30年経過して中国材のナラ・タモは伐採禁止になりました。ロシア材のナラ・タモもワシントン条約条項2に該当する樹種になりました。

勿論日本国内には良質のナラ・タモは残念ながら、無くなりました。

30年間で優良木材資源は大きく様変わりしたのです。新しい元号・令和になりますが、我々材木屋は過去の恵まれた状況下で『資源を大事にして来なかった』ことを実感して、本当の木材の情報をユーザー様に提供して行く以外に生きる道がないことを考えるべきだと思います。

令和と言う時代は、材料を大事にする時代です。